

県大生 防災の知恵学ぶ

高知市 200人が情報伝達や炊き出し



新聞やビニール袋などを使って簡易ベッドを作る学生（高知市池の県立大）

南海トラフ地震を想定した災害訓練が17日、高知市池の県立大学で行われた。学生や教職員ら約200人が高知医療センターとの情報伝達や炊き出しなどに取

り組み、発災時の対応を確認した。県立大は市の指定避難所。大規模災害時には地域の避難者に加え、隣接する同センターに搬送された軽

傷者らを受け入れる。

この日の訓練は、最大震度7の地震を想定。教職員らが対策本部を立ち上げ、「学生寮にけが人1名」など状況を時系列で記録。衛星通信サービスを使ったIP電話で同センターと状況を報告し合った。

学生は簡易ベッド作りや災害時トイレの使い方も体験。健康栄養学部学生は、耐熱性のポリ袋に食材を入れて湯煎する「バッククッキング」でサツマイモを蒸し、甘露煮と熊本の郷土菓子「いきなり団子」計約170食を作った。

同学部1年の島本幸歩さん(18)は「少しの調味料でも、おいしく簡単に作れて驚いた。災害時にもこの調理方法を活用したい」と話していた。
(高橋遥)